



世界の映画人と交流しグローバルに活躍しよう！ 『グローバル・コネクト・キャンプ』 参加者募集

映画のプロが
直接指導

グローバル・コネクト・キャンプとは…

世界の映画・映画人との交流を通じ、グローバルに活躍する人材を目指すワークショップです。

- ✔ 映画業界に関する講義
- ✔ プサン国際短編映画祭関係者との交流
- ✔ 海外映画作品の鑑賞・セレクション・評価
- ✔ 北九州国際映画祭の運営等

映画業界に関わる力やグローバルに活躍するためのスキルの習得とネットワークの構築に取り組みます。

北九州市では「映画の街・北九州」の都市ブランド構築の一環として、昨年度より次世代の映画人を育成する『北九州ムービーアカデミー』を開講しており、大学生等を対象としたプログラム「グローバル・コネクト・キャンプ」を今年度も開催することとなりました。本件について周知ならびに当日の取材にご協力をお願いします。

募集期間

5月18日（月）～6月19日（金）
※6月26日（金）までに当選者のみに決定通知をメールします。



（応募サイト）

申込方法

下記よりお申し込みください。
URL:<https://ttzk.graffer.jp/citykitakyushu/smart-apply/surveys/4205390847686167958>

対象者

下記いずれかの要件を満たす18歳以上の学生（大学生・大学院生、専門学校生など）
①北九州市内在住者（※市外に通学する学生を含む）
②北九州市内の学校に通学する学生

定員

全体で15名程度（応募多数の際は抽選）

参加料

無料

コース

- ①グローバル・コネクト・映画人材コース
 - ②翻訳・コミュニケーションコース
 - ③どちらにも興味あり
- ※参加確定後も希望に応じてコースは変更可能です。

日程

第1回：7月4日（土）13:00～15:00 キックオフミーティング
（第2回目以降は、月1回程度で実施）

短編映画鑑賞／作品セレクション・評価／SNS広報／映画祭運営／振り返り等を実施するほか、作品の翻訳や海外の映画人との交流を行います。

会場

第1回：北九州メッセ 3階 303会議室
（北九州市小倉北区浅野3-8-1）

講師プロフィール

にしたに かおる

西谷 郁 氏 (キュレーター&プログラマー)

福岡インディペンデント映画祭主催者。日本映像学会西部支部幹事。
アジア映画や映像ワークショップをプロデュース。

昨年の活動状況

プサン国際短編映画祭を訪問！現地の映画監督や業界関係者と直接対話し、
映画制作の最前線を肌で感じてきました 🎬



北九州国際映画祭『短編学生セレクション』では、学生自らが、プサン国際短編映画祭で上映された作品の中から、4作品を厳選し、日本語に翻訳を行い上映しました。また、海外からゲストの招聘をしました

『国道7号線』

英題: ROUTE 7

[2024・韓国・日本・30分]
監督/チョン・ジニョン(CHUN Jinryong)



秋田県出身の右日韓混血3世。高校卒業後、韓国語と韓国の文化を学ぶため渡韓。ソウル大学在学中に映画制作を始め、韓国芸術総合学校で映画演出を学ぶ。代表作『ミスとえ』は国内外の映画祭で多数の賞を受賞。

秋田県の国道7号線沿いにある小さな町で、母キョンジャと一緒に50年間営業したパチンコ店を畳むことになったヨソホ。母が亡くなり一人取り残された時、母宛てに北朝鮮から送られてきた一枚の手紙を見つけて…



©Busan International Short Film Festival

学生レビュー

日韓両国に存在する国道7号線。直接繋がってはいないものの、離れた親子関係や日韓朝の三か国を“繋ぐ”架け橋となる。日常会話や空気感の表現が繊細で、誰もが共感し、あたかも余韻を残す作品だ。(西畑、牟田)

『クローゼットの中の社会』

英題: Society of Clothes

九州プレミア

[2024・韓国・フランス・カナダ・15分]
監督/チョン・ダヒ(JEONG Dahee)



韓国出身。弘基大学卒業後、パリ国立装飾美術学校でアニメの修士号を取得。現在はソウルを拠点に活動。『空室部屋』は第16回広島国際アニメーションフェスティバルで大賞を受賞。100以上の国際映画祭に招待され、20以上の賞を受賞。

クローゼットの中の社会に朝が訪れると、シャツとパンツが人の形を成してクローゼットの外に踏み出す。誰もが顔も体もないただの服として存在する世界で、服たちは日々たの業務をこなしている。



©Busan International Short Film Festival

学生レビュー

シャツ、パンツ、帽子、手袋など様々な服を色彩豊かで柔らかなタッチで描いたアニメーション作品。この作品を通してこの服を着ているのは男性か女性かなど誰と人について考えるきっかけになるだろう。(黒澤)

『わたしの悪魔』

英題: My Demon

ジャパンプレミア

[2024・コロンビア・17分]
監督/ロザナ・モントヤ(Rossana MONTOYA)



1991年、コロンビア・ボゴタ生まれ。幼少期から演劇・テレビ・映画に女優として出演。ブラジリアン大学で人類学を専攻した後、フランス・パリで演劇とダンスを学ぶ。自身が脚本・監督・主演を務めた初の短編映画『Arena』でIDARTES賞を受賞。

病院へ向かう車の中で口論中の出産間近のエヴァとその夫ヤコブ。繰り返す着信音と陣痛の高まりで二人の感情がどんどんエスカレートし、車内は緊張感に包まれる。果たして二人はこの極限の状況乗り越えることができるのか。そして二人の直面している厳しい現実とは。

※本作品には出産の場面が含まれます。



©Busan International Short Film Festival

学生レビュー

激しい口論から浮かび上がる、二人を取り巻く様々な問題と出産に対する価値観の違い。車内という密室での口論から出産までがワンカットで捉えられ、誰も息をつく間もない緊張感と臨場感に引き込まれる。監督自ら主演をつとめた作品。(出口)

『太陽を愛する者』

英題: Who Loves the Sun

ジャパンプレミア

[2024・カナダ・20分]
監督/アルシア・シャキバ(Arsha SHAKIBA)



トロント・フィルムスクール卒。イランのロック音楽のMV監督を勤めた後、ドキュメンタリーへ。本作は、2024年ベネチア国際映画祭においてオリゾンティ短編映画賞を受賞。

石油精製の炎と煙、荒廃した街。そこで確かに生きている人々——戦いが続くシリアで撮られた、命懸けのドキュメンタリー。ある壮年と少年を軸に映し出される彼らの日常は、壊滅的な現実であり、どこか美しい一日でもある。



©Busan International Short Film Festival

学生レビュー

圧倒的な映像美に、五感が鋭い込まれていく。危険な情勢の中、身を賭して撮られた本作は、美しさと厳しさによる二重の没入感を与えてくれる。石油精製と製鉄、それら産業の戦争動員という意味で、北九州とも共鳴。(藤田)

※すべての作品に日本語字幕がつきます。

学生たちは受賞作品の選定にもチャレンジしました
北九州国際映画祭2025「短編学生セレクション部門」発表時の集合写真(小倉昭和館)



北九州ムービーアカデミーとは

北九州市では、フィルム・コミッション活動等を通じて培ってきた実績やポテンシャルを最大限に活用し、映画のプロが直接指導する「北九州ムービーアカデミー」を開校しています。

映像制作や映画産業に関心のある子ども・若者を対象にした育成プログラムを展開することで、次世代を担う若者の挑戦や可能性を後押ししていきます。

◆全てのプログラムは取材可能です。◆掲載写真の提供が可能です。

【お問合せ・ご連絡先】

北九州市都市ブランド創造局MICE・メディア芸術課
担当 藤田(課長) 蔭浦(係長) 電話: 093-551-8152